

別紙 1-2 (様式第 1 号・様式第 5 号添付用)

提案型協働事業計画書 (活動支援交付金)

団 体 名	設立年月日	平成 24 年 6 月 23 日	団体の構成人数	10 人
	バリアフリーコラボレーション実行委員会			
1 事業の名称及び 実施期間	名称：バリアフリーコラボレーション 2015 期間：平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日			
2 該当する 町の施策方針	基本目標 3 ふれあいのあるまち ② 誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できるまち ③ 文化・芸術・科学に触れる機会を充実する。 基本目標 5 いきいきと暮らせるまち ② 高齢者や障害者がいきいきと暮らしているまち ③ 障害者の自立を応援する 3 みんながお互いを理解しやさしい心を持っているまち ① 地域ぐるみで福祉を支える			
3 解決へ向けて取組 む地域課題	①インクルーシブ教育システム構築 共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの構築が求められている。 ※「インクルーシブ教育システム」とは、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと。 インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに個々の障がいの状況に応じて合理的配慮が求められる。同様に地域社会においても、インクルーシブ (社会包摂) 機能が求められる。そのためには、障がい者とふれ合う場面を多くすることで、互いの理解を深めることが必要である。 ②知らないことから生まれる差別 全国で障害者差別禁止条例が設置されつつあるが、差別の中には、どう関わっていいのかわからないことから、差別を生んでいるケースがある。一緒に過ごした経験がないことからの弊害である。 これらの地域課題を解決するには、「無関心」をなくし、お互いの存在を知り、認めあえる環境をつくるのが大切。交流の場を協力者を募って、みんなで作る。			
4 協働対象部署	生涯学習課、福祉課			

<p>5 事業の内容等</p> <p>(1) 事業内容と方法 (2) 実施場所 (3) 対象者 (人数等具体的に) (4) 事業PRの方法 (5) その他</p>	<p>(1) 障害のある方と障害のない人の交流の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動している障害者の出演（歌・パフォーマンス） ・障害者とミュージシャンの共演 ・音と光のコラボレーション ・ボランティアの育成 ・地域に存在する団体に呼び掛けて、一緒に企画運営をする。 <p>(2) ゆめたろうプラザ 響きホール</p> <p>(3) 障害のある方5人、それを支援してくれるミュージシャン5人、運営ボランティア50人、来場者180人</p> <p>(4) チラシの配布（町内の小中学校、各種団体、企業など） 町の広報誌、ケーブルテレビ、新聞掲載 特別支援学校、特別支援学級への案内</p>
<p>6 事業実施により期待される効果</p>	<p><u>障害者に対する理解を広げる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで福祉に関心のなかった方も、音楽を通じて障害のある方とつながることができる。 ・障害の有無にかかわらず、音楽を通じて、みんなが一緒に楽しむ時間と環境をつくることで「知らない」というバリアをなくし、障害に対する理解を生み、差別や偏見をなくすことができる。 ・障害のある方と出会う機会を得た子どもたちは、将来、障害のある方々のよき理解者となる。 ・「バリアフリー」をテーマに、音楽で障害者とミュージシャンが共にコラボする姿を通じて、ステージを支える裏方スタッフ、来場者すべてが、障害のある方に対する理解者となる。 ・町の広報誌、ケーブルテレビ、新聞社などを活用し、イベントの紹介をすることで、障害のある方に対する理解の啓発をする。 <p><u>障害者の生きる意欲を高める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす障害のある方が、ミュージシャンとコラボしてステージに立つことでの感動を味わい、新たなチャレンジへとつながる。 <p><u>つながりを継続していく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この企画は1回限りで終わるものではなく、毎年実施することで、障がいのある方への理解が深まり、ミュージシャンや地域のボランティアの輪が確実に広がっていく。
<p>7 事業の特徴</p>	<p>ふだん、嬉しくなると、とび跳ねたり、奇声を発する障害者は、コンサートに行くことができない。聴覚に障害のある方が楽しめるコンサートは限られている。</p> <p>そうした困難のある方が参加しやすい企画を障がいのある方と健常者と一緒につくりあげることで、障害への理解が広がり、共生社会の実現につなげる。</p> <p>障害のある方が一緒に楽しめるよう、音楽に光や振動を連動させる。手話通訳、要約筆記などのコミュニケーション支援も導入するなどの工夫をする。</p>

<p>8 今後の 事業ビジョン</p>	<p>武豊町の共生社会の実現のための啓発活動として、位置付けたい。</p> <p>恒例の啓発活動とすることで、中学生・高校生・大学生などのボランティア協力体制を構築する。</p> <p>日常的な福祉的支援の枠を超えて、文化・芸術の方面の方々（ミュージシャン、パフォーマーなど）の協力を得て、広がりのあるイベントとしていく。</p> <p>持続可能な事業とするため、行政との協働と企業からの資金協力を求めている。</p>
<p>9 その他</p>	

※ 記入欄が不足するときは、別紙を添付してください。